

第1回 吹田市立留守家庭児童育成室運営業務委託事業者等選定委員会 要旨

1 日 時 平成29年8月2日(水) 15時00分～18時00分

2 場 所 吹田市立千里丘北小学校会議室
吹田市立千里丘北留守家庭児童育成室

3 出 席 委員長
副委員長
委員3名

4 議事録

(事務局) 委員の紹介

(事務局)

委員長について、立候補がない場合はあらかじめお願いしていた委員にお願いしようと考えています。よろしいでしょうか。→委員長の選任

(委員長)

副委員長を指名します。→副委員長の指名

(事務局)

本日の委員会の主旨の説明

千里丘北育成室について、現在の委託事業者は、今年度が3年契約の契約満了の年に当たっています。本来ならば、改めて委託事業者を募集することになりますが、人を相手にする業務では、利用者である児童や保護者との信頼関係の構築が大切であるため、良質なサービスが提供されている場合は、同じ事業者が継続して運営する方が、利用者にとって、望ましいものであると考えています。

本市では、上記のような業務内容の場合、現在の委託事業者が、より良いサービスを効率的に提供していると判断した場合には、吹田市公共工事等入札・契約制度改善検討委員会の承認を経て、現在の事業者との随意契約により、契約の更新ができることになっています。そのため、当委員会では、現在の委託事業者のサービス内容を客観的な規準をもとに評価し、契約の更新の可否について答申するものとなっています。

(事務局)

本日のスケジュールの説明(資料2)

【委員による千里丘北留守家庭児童育成室の見学1回目】

(委員)

事務局より本日の配付資料の説明をお願いします。

(事務局)

配付資料の説明

(委員)

評価シートに「配慮を要する児童に対する保育」の項目があるが、現在の千里丘北育成室の配慮を要する児童の申請状況、また育成室における配慮を要する児童の保育について教えて下さい。

(事務局)

配慮を要する児童（障がいをもつ児童）の申請をされた場合は、育成室ではその児童に対して、発達の支援の取り組みを吹田市立地域支援センター等と連携行っています。具体的には、当該児童に対する育成室での保育のアドバイスを地域支援センターの職員が出向いて行う「巡回相談」や当該児童の発達状況を客観的に見る「発達検査（知能検査）」等となっています。そのような支援の取り組みを行いながら、当該児童の発達のお手伝いをするも行っています。

現在、千里丘北育成室では配慮を要する児童の申請をしている方が1名います。通園されていた保育園と引継ぎを行った際は落ち着かない様子も見られましたが、育成室では比較的落ち着いて過ごすことができています。

(委員)

今回の評価では、当該配慮を要する児童の保育についての評価は行うのですか。

(事務局)

今回は、現在の委託事業者のこれまでの育成室の運営状況の評価を行っていただくこととなっています。したがって、今年度から入室している配慮を要する児童の保育についても評価対象とするようお願いします。

(委員)

配慮を要する児童の申請を希望する児童については、どのような手続きで育成室に入室できるのですか。

(事務局)

保育中に医療行為が必要でない児童については、基本的には受入れを行っています。

児童の様子（車いすを利用している、集団に加わるのが苦手である等）に応じて、育成室の改修や人的加配を行い、できるだけその児童にとって過ごしやすい環境を整えた上で受入れを行っています。

（委員）

本日の今後の育成室での予定を教えてください。

（事務局）

ただいま、育成室は自由時間となっています。その後、終わりの会があり 17 時 00 には延長保育を利用しない児童は集団下校をすることとなっています。なお、本日は小学校の工事の関係で運動場を使用できないため、遊ぶ場所は育成室内に限られています。

【委員による千里丘北留守家庭児童育成室の見学 2 回目】

（委員）

それでは、次に事業者および学校長に対するヒアリングを行いたいと思います。事務局から説明と委託事業者の紹介をお願いします。

（事務局）

現在の委託事業者ですが、小学校の正門を出て直ぐの所で、認定こども園を運営しています。今回の契約に関しては、平成 26 年度に事業者を募集し、応募のあった 3 事業者の内から選定され、平成 27 年度から運営を委託しています。

委託事業者から、自己紹介や育成室運営にあたっての考え方などを話してもらいますので、よろしくをお願いします。

(委託事業者)

本日はどうぞよろしくお願いいたします。千里丘北育成室の運営にあたっては、小学校と連携させていただきながら行っております。育成室運営の基本方針としましては、子ども達が楽しく過ごすことができる学童保育にしていきたいという事であります。そのためには、指導員には子ども達との関わりを最も重視するようにと指導しております。運動場等で子ども達が思い切り体を動かすことができるような、また、家でも学校でも言えないようなことを相談することができるような場所にしていきたいと考えております。したがって、指導員についても、若い男性職員やベテランの女性職員等、色々な年代の職員を配置して様々な対応ができるようにしております。千里丘北育成室は新規開室の学童保育ですので、事業者としましても、新しい取り組みができるようにとそらばんの取り組みを行っており、子ども達も日々がんばっております。今後もそのような新しいことにも取り組んでまいりたいと考えております。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

(事務局)

この後は、自由討論の形式で、事業者に対して質問をしていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

(委員)

本日は、子ども達がとても楽しそうに過ごしている様子を見せていただきました。ありがとうございました。

指導員の配置についてですが、本日は1つの教室に3名位の指導員がいたかと思うのですが、専任の指導員とそうでない指導員の数はどのようになっているのですか。

(委託事業者)

千里丘北育成室には4名の常勤の指導員を配置しています。その4名については、夏休み等の一日保育時以外は、午前中は認定こども園で勤務しており、13時の育成室の開設時間からは育成室で勤務しています。

非常勤の者として、育成室専任の者が1名、学生アルバイトが1名となっております。

(委員)

常勤の指導員はすべて保育士等の資格を持っているのですか。

(委託事業者)

すべて、有資格者です。保育士もしくは小学校教員の資格を有しております。

(委員)

乳幼児期の保育と学齢期の保育について、重なるところもあれば、違うところもあると思います。そのような中、学齢期の保育について、支援員の資格取得のための研修以外に、どのような研修を指導員に対して行っているのですか。

(委託事業者)

研修については、吹田市から案内があったものについては、参加するようにしております。指導員同士で学齢期の子ども達の保育について振り返りながら進めるようにしております。また、指導員の中には小学校の教員の経験者がおりますので、その者の経験も活かしながら、日々の研鑽に努めております。

(委員)

聞くまでもないこととは思いますが、この場に出席していただいていると言う事は、次年度以降の育成室の運営を希望されていると考えてよろしいですか。

(委託事業者)

もちろん。そのつもりであります。

(委員)

千里丘北育成室については、吹田市が初めて民間に運営を委託したところであるので、最初は手探り状態なところもあり、保護者等から色々な要望を受けて、苦勞されたと思います。

そのような中、この契約期間において、保護者からの要望を受け改善されたところがありますか。

(委託事業者)

小学校の開校と同時のスタートであり、保護者も全く分からない状態からではありましたが、一部の方は、吹田市内の他の育成室から引っ越しされてきた方がいらっしゃいます。その方たちは、以前の学童保育と比較した要望を述べられてきました。(「連絡ノートに子どもの様子を毎日記入してほしい」や「おやつを量をもっと増やしてほしい」等)

連絡ノートの件で言いますと、連絡ノートを記入している間は、子ども達の様子が見られなくなります。それは本来の指導員の仕事が疎かになると考えておりますので、連絡ノートに関しては、体調不良や怪我等の特別は事情が無い限り記入は簡素なものとしております。そのため、保護者と指導員との意見交換の場として個人懇談会を年3回行い、また、保護者同士や保護者と指導員との交流を目的として、年3回親子ふれあいクラブを行っております。

(委員)

そのような、初期段階での要望については、今もあるのですか。

(委託事業者)

連絡ノートに関しましては、一定の理解を得られましたので、現在、要望はいただいております。また、子ども達にも、学童保育であったことを家に帰って家の人と話をしてほしいと伝えています。

(委員)

指導員同士の運営についての話し合いはどのようにしているのですか。

(委託事業者)

指導員同士の会議については、13時から児童が育成室に来るまでの時間を充てております。主に連絡や課題の共有を図っております。

(委員)

育成室での行事やイベントの内容は誰が決めているのですか。

(委託事業者)

行事には市の行事の参加もありますが、内容は指導員が決めております。

(委員)

年間の計画についてはどのようにしているのですか。

(委託事業者)

指導員が作成したものを、委託事業者の事務局に提出するようにしています。

(委員)

お便りや育成室の中にあつたおやつ表も指導員が作成しているのですか。

(委託事業者)

以前に別のところで学童保育を経験している者もおりますので、その者にも教えてもらいながら進めております。

指導員主導で、あまり委託事業者の事務局から注文をしないようにしております。何かあれば、相談するようには指示しております。

(委員)

相談はどのような形を取っているのですか。

(委託事業者)

指導員のリーダーが、私のところに来て相談をするようにしております。

(委員)

そろばんの取り組みも指導員から提案があったのですか。

(委託事業者)

そろばんについては、事業者から指導員に提案する形で進めてまいりました。

(委員)

指導員の成り手がなかなか見つからない中で、認定こども園と学童保育の勤務を組み合わせる方法はなかなか良いものと思うのですが、認定こども園でも業務上の課題を抱えており、学童保育でも同様に抱えていると思います。そのあたり、指導員に負荷がかかりすぎませんか。

(委託事業者)

認定こども園では、担任の補助の業務に充てるようにしております。主はあくまでも学童保育の勤務となっております。

(委員)

夏休みの勤務はどうしているのですか。

(委託事業者)

夏休み期間中は学童保育のみとなります。

(委員)

1年生と4年生では成長段階、発達段階にかなり違いがあると思います。そういった学年による違いをどのように保育に活かしているのですか。

(委託事業者)

全体活動、グループ活動において、上級生は下級生を助け、周りをまとめる役割をもつことができるようにしております。いろいろな活動の中心になってもらい、下級生をまとめる役を担ってもらうようにしております。その様子を見ていた下級生は、次に自分が上級生になった時には、今の上級生の役割を担うようになってもらいたいと思っております。

(委員)

指導員には、小学校の教員志望者が多くいるのではないのですか。

(委託事業者)

今のところ、そのような者はありません。

(委員)

学童保育の指導員は専門的な仕事であるにもかかわらず、昼からの仕事であるため、給与面で生活が出来なくて離職に至るケースも良くあります。そのような中で、午前中は未就学児の保育に従事し、午後からは学童保育に従事するようなシステムは良いものと思います。

(委員)

なかなか、珍しいシステムですね。

(委託事業者)

委員のおっしゃるとおりで、このような形の求人を行うと全国から応募がございます。

(委員)

全国的に保育士不足、幼稚園の教員不足が言われています。吹田市でも同様の事が起こっており、市を挙げて取り組んでいるところです。そのような中、学童保育の需要も上昇しており、今後、入室児童が増えていくとそれに応じて指導員の確保をお願いしなくてはなりません。それについては、どのような工夫をされているのですか。

(委託事業者)

学童保育については、現行の求人を行うとある程度応募がございます。したがって、人数の確保についても対応できると考えております。

(委員)

現在の指導員は、以前は他の学童保育で勤務していた方もいるのですか。

(委託事業者)

そのとおりです。別の委託を受けている育成室になりますが、過去に吹田市の学童保育に勤務していた者もおります。

学童保育の指導員を希望する者は熱い思いを持った者がたくさんおります。勤務について、ある程度条件が整えば、指導員は確保できると考えております。

(委員)

現状では、指導員の勤務のシステムが上手く機能しているのですね。

(委託事業者)

おかげさまで、今のところ、上手く回っていると感じております。

(事務局)

千里丘北育成室がある千里丘北小学校の学校長に、学校から見た運営状況等のお話を
いただきたいと思います。

(学校長)

私自身も、小学校の開校と同時に赴任してきました。本校は1年目から毎年、児童数
が増加しており、その中でこの間、育成室と一緒に課題の解決を図ってきました。同時
に育成室は「第二の家」ですので、「第二の家」としてどのようにしていけばいいのか考
えてきました。一例を挙げると、学校が終わり育成室に行く場合に、校舎の中からその
まま育成室に行くと、子ども達にとっては小学校の延長のようになってしまいます。そ
こで、子ども達には一旦、靴に履きかえて校舎から出て、違う入口から校舎に入り靴を
脱ぎ、学童保育の教室に行くことにしています。そうすることで、子ども達には、「学童
保育は学校とは違う場所ですよ」ということをしっかりと認識させるようにしています。
委託事業者とはそのような話をしながら、進めて行きました。

現在の委託事業者が優れていると感じることとしては、指導員が事情で休んだ場合は、
委託事業者から代替りの者をすぐに派遣していることです。小学校からすぐのところに
委託事業者があるのでできる事ですので、現在の事業者は委託先としてベストなもので
あると考えています。

何か話がある時は私自身も委託事業者に行くこともあり、教育委員会を通すよりも迅
速な判断が求められる場合も、十分に対応が可能です。保幼小の連携もできており、近
隣の別の保育園も含めて、大規模な避難訓練の際は、全員が小学校の運動場に防災ずき
んをかぶって集合することもできています。

これまで大きな事故もありませんでしたし、何よりも本日の様子を見ていただいてお
分かり頂けるように、子ども達が指導員の周りに寄ってきており、子ども達がいかに指
導員の事を好きでいるのかがよく分かります。本日は工事の関係で運動場が使用できま
せんでしたが、普段の日は半分くらい運動場に出て、野球やドッジボールで遊ぶ姿が見
られます。この外遊びは、子ども達の運動能力の向上にも寄与しています。

開校からここまでは、小学校とは連携して非常に上手くいっていると認識しています。

(委員)

入口が違う作りになっていることは面白いと思っていましたが、初めからそのような
事を意図して小学校を作ったのですか。

(学校長)

初めから意図したものではありませんでした。本来は、職員、来賓用の入り口になっており、現在もそのためにも利用しています。今後児童数が増加するため、下駄箱の配置を考えておかななくてはならないと思っています。

本校は夜間機械警備を導入しているため、最後は指導員がセキュリティを設定しなくてはなりません、それについても責任を持って行ってくれています。

(学校長)

先ほど委託事業者からもあったように、他の育成室を利用していた保護者から連絡帳の記入等について、学校も相談を受けていました。1年目の1学期は多少ぎくしゃくしたところがあったものの、2学期からはそういったことも収まっていきました。

(委員)

子ども達が指導員の事が大好きであることも感じる事ができましたが、あれだけの人数がいる中で、子ども達が他の子ども達の名前を全員把握しているのにも驚きました。上級生が下級生に対して、色々とテキパキと指示をしている様子もありました。そのような指導を普段からしている印象を感じました。

(委員)

今後、児童数が増加して行き、定員ギリギリの運営になった場合の心配はありますか。

(委託事業者)

昨年は、1クラス運営でした。1クラスで40名の児童の受入れを経験しております。最大の定員は45名なので、昨年来よりも多い状態ということ想定する必要があると考えております。部屋の中の物をできるだけ減らし、怪我が起こらないようにしていく必要があると考えております。

(委員)

本日の見学では、たまたまだったそうなのですが、1つの部屋はテーブルが出されていて静かに遊んでおり、もう1つの部屋は何もない状態で、子ども達はチャンバラのような身体を動かした遊びをしていました。そのような、何か空間を分けるような取り組みはしているのですか。

(委託事業者)

昨年は1クラス運営で、2室の使用ができたため、部屋の使い方を分けていましたが、今年度からは2クラスの運営になり、部屋を分けることは難しくなりましたので、子ども達の帰るのが遅い日等、曜日によっては部屋を分ける日を設ける等、指導員は工夫して対応しております。

(委員)

子ども達の静養室や発達障がいをもった児童がクールダウンするような場所は作ることができているのですか。

(委託事業者)

今まで、それほど大変なことはありませんでしたが、そういった状況になれば、子ども達にも話をして、部屋の隅にそういったスペースを作って対応していくことになるかと考えております。

(委員)

発達段階について、境界域のように少し課題を持った児童もいるかと思いますが、そのような児童に対しては、どのように対応しているのですか。

(委託事業者)

何名かは、少し課題がある児童も育成室にも在籍しております。今までは、特に大きな問題となったことはありませんが、指導員には気を配りながら保育するように伝えております。

(委員)

小学校には読書支援員が配置されており、放課後の時間帯でも指導員の付き添いがあれば、図書室の利用も可能としています。その利用を今後、進める考えはお持ちですか。

(委託事業者)

そのような形で、利用させていただけるのであれば、進めてまいりたいと考えております。

(委員)

市、委託事業者、小学校と情報の共有が大変ではありませんか。

(学校長)

それは特に感じません。市の担当職員も良く育成室を訪問されていますし、内容によって、委託事業者にまず知らせに行ったり、市の担当者に連絡したりしており、今のところ問題はありません。

(委員)

子ども達が遊ぶおもちゃはどのようにして選んでいるのですか。

(委託事業者)

指導員が、子ども達が好きそうなおもちゃを選んでおります。子ども達の興味がどんどん増えていくように、人生ゲームやカルタ等、色々な種類の物をそろえるようにしております。

(委員)

質問も、ある程度出たようなので、これでヒアリングは終了したいと思います。事務局より今後の流れを説明してください。

(事務局)

事業者の方はこれで退席していただきたいと思います。この後、資料7を用いて、会計の専門の委員より、事業者の経営状況についてのコメントをお願いします。

(委員)

長期にわたる経営状況を見る場合には貸借対照表を見る必要があります。事業所のプラスの財産としては約〇〇円あります。一方、マイナスの財産としては約〇〇円あり、合計として資産は約〇〇円なっています。負債は〇割程度しかなく、これをもって経営基盤は安定していると言えます。

(委員)

財産はほとんどが固定資産になっていると思いますが。

(委員)

その通りで、流動資産はそれほど多くはありません。社会福祉法人なので、あまり流動資産が多すぎることも問題があります。

(事務局)

それでは、これを持ちまして本日の委員会を終了したいと思います。本日はありがとうございました。